



## イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 523 回 怒りの一撃 ～ これも長嶋茂雄伝説

2013.5.5

通算記録(実働17年):打率.305、本塁打444本(歴代11位)、1522打点(歴代6位)、2471安打(歴代7位)。首位打者6回(歴代3位)、本塁打王2回、打点王5回、最多安打10回(歴代1位)。新人王、日本シリーズMVP4回(歴代1位)、シーズンMVP5回(歴代2位)、ベストナイン17回(三塁手として歴代1位)。もうご存知だろう、長嶋茂雄の球史に残る足跡である。

王ほどの輝かしい世界記録は保持しないが、現役時代は、「ミスタージャイアンツ」、「燃える男」などの異名を持ち、他の選手からは「ひまわり」とも呼ばれた。

引退後も巨人の監督として活躍し、選手をしのぐ人気から「ミスタープロ野球」、二十世紀最高のスポーツ選手との呼び声もある。

小生、本物の長嶋さんに会ったことはないが、小学生から憧れの人だった。

「やる」スポーツは柔道だったが、「見る」スポーツは野球とプロレスのみ！

しかも野球は巨人戦しか見ないという、少し偏屈なファンかもしれない。

そのきっかけはすべて「長嶋茂雄」である。

選手としてはもちろん、監督として、いや、人として、この上ない魅力を持ち続けている。

長嶋さんに関するエピソードは「長嶋伝説」というほど、たくさんある。

その中に「怒りの一撃」という真実がある。

…1968年9月18日、同率首位で並んでいた巨人と阪神の対戦は巨人金田、阪神バッキーの先発で始まった。1-0の巨人リードで迎えた4回表、2死2塁で打席に立った王は、バッキーから初球を頭部付近に投げられる。さらに次の球がまた王の膝めがけて投げられた。

紳士の王も、さすがに怒り、マウンドに詰め寄った。そこへ走り込んできた巨人の荒川博コーチがマウンド上のバッキーにキックを入れた。バッキーも、パンチで応酬し、荒川コーチの顔面に右ストレートを見舞った。あとは両軍入り乱れての乱闘となった。そして、再開後、バッキーの後を受けた権藤正利投手が王の後頭部に死球をぶつけた。倒れた王は、担架で運ばれて退場した。再び乱闘かと思われる場面で長嶋茂雄は、両軍の選手たちを制して穏やかに鎮めた。再び開始された試合で打席に立ったのは長嶋だった。長嶋は、ざわつく周囲の状況をものともせず、代わった若生智男投手から放った怒りの一撃はレフトスタンドに吸い込まれていく3ランとなった。この一発により巨人は快勝。

阪神を突き放してそのままリーグ優勝へ突き進んだ。…

<http://1st.geocities.jp/dogyamanet/player/sportsnagasima.htm>

コミカルといえるほど嫌味のない天然人「長嶋茂雄」とは少し違った、ジェントルで男っぽい彼を伝える、素敵な実話であると思う。

その長嶋氏へ国民栄誉賞の授与が決まった。しかもなぜか、松井秀喜氏と一緒に受賞となった。賛否両論、色々あるが……、今日は素直に、喜びたいと思っている。